

6年 7 解説	文字を用いた式(2)	___年 ___組
		名前

次の数量を表す式を書きましょう。

1本80円の鉛筆□本と、1冊120円のノート○冊買ったときの代金

(答え) $80 \times \square + 120 \times \bigcirc$

このような式で、□や○の代わりに文字^{エー} a 、^{ビー} b 、^{エックス} x 、^{ワイ} y を使うことがあります。

1本80円の鉛筆 a 本と、1冊120円のノート b 冊買ったときの代金

(答え) $80 \times a + 120 \times b$

(1) 等号のない式

1枚50円のクッキー a 個を、80円の箱につめるときの代金の合計は。

考え方① 「例えば、1こだったら、2こだったら…と文字に数を入れて考えると…」

$50 \times 1 + 80$ $50 \times 2 + 80$ $50 \times 3 + 80 \dots$ (答え) $50 \times a + 80$

(2) 等号のある式

底辺が5cm 高さが x cmの平行四辺形があります。面積は y cm²です。

考え方② 言葉の式や面積の求め方を考えると…
 (底辺) × (高さ) = 平行四辺形の面積

(答え) $5 \times x = y$

(3) 対応する値を求める

$5 \times x = y$ で x の値が3のとき、対応する y の値を求めましょう。

考え方③ x の値が3のとき… $5 \times x = y$ の x に3を代入すると…

$5 \times 3 = y \Rightarrow$ (答え) $y = 15$

(4) 式を読んで場面を考える

考え方④ 式を読んで場面を作ったり、場面から式を作ったり、両方を考えてみる。

